

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170503700), 法人名 (北海ケアサービス(株)), 事業所名 (グループホーム 北海ハウス二番館 ききょう), 所在地 (札幌市白石区北郷8条3丁目6-30), 自己評価作成日 (令和2年12月25日), 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosvoCd=0170503700-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年12月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外観・内装共に和風で落ち着いた雰囲気建物です。常に明るく、清潔感を保つように努めています。共有空間のフロアには手作りのカレンダーや飾りつけをして、季節の移り変わりが分かる様に工夫をしています。ペランダのお花や観葉植物に水やりをしたり、熱帯魚を眺めたりして思い通りに過ごしています。中庭では家族や地域の方々とバーベキューを楽しんだり、冬にはフロアが北海居酒屋になったりします。調理のスタッフが居るので、1日おきに近所のスーパーへ買い出しに行き、新鮮で旬の食材を使った彩りの良い美味しい料理が自慢です。行事やお誕生会では更にグレードアップしたり、出前を取ったりするので、皆食事を楽しみにしています。個々の病気や食事の摂取状態を把握して、いつまでも自力で安全に食事が楽しめるような工夫や支援を行っています。コロナ禍で行事や外出が難しくなっていますが、体操やレクリエーション活動、近所への散歩でお花を眺めたり、犬をなでたりして気分転換をするように過ごしています。今までの生活環境と変わらない、家庭的な雰囲気を大切に、認知症があっても安心して暮らせる安らぎの家を目指し、「笑顔で 明るく やさしく」を理念に掲げ、職員一同日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム北海ハウス二番館は、バス停より5分の幹線道路沿いに位置し、開設15年を経た2ユニットの事業所である。和の趣ある二階建てのホーム内は生活感や季節感のある設えで、テラスや中庭でも外気浴や花々を楽しめる住環境である。事業所の特徴として、18名の集団生活の中で、一人ひとりに寄り添った個別ケアへの取り組みが挙げられる。生活全般を通して、個性や介護度、身体状況を考慮し、体操やレク活動、デイケアの利用などで、心身の機能維持や個別の楽しみを工夫し、外出支援もできる限り希望に応え、寿司やステーキなどグループごとの外食会や、定山溪での観劇にも個別に対応している。医療支援では、基礎疾患を抱えていたり、状態変化の顕著な認知症高齢者の支援にきめ細かく対応し、訪問診療医の確保や各病院受診を職員が同行している。また、食の充実に取り組み、食べたいものを聞きながら、時には中庭でのバーベキュー、出張寿司や居酒屋メニュー、手作りお節で正月を祝うなど、利用者の満足感と笑顔に込めている。恒例の親睦会は家族や地域住民を交えて開催し、年3~4回の自主避難訓練の継続も特筆できる点である。コロナ禍では、活動面に制限はあるが意識して生活の活性化に努めており、利用者にとっての心地よい安心生活を求め、理念の実践に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で明るくやさしく」を理念とし、家庭的な環境で、利用者が安心して暮らせるよう支援している	事業所の理念は全職員で共有し、常に意識できるようにホーム内の要所に掲示している。利用者一人ひとりが安心して過ごせるよう、生活環境を整え、笑顔で視線を合わせて寄り添うことを大切に、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年では町内会の行事に参加したり、日常の散歩で地域の方々との交流があるのだが、今年度はコロナの影響で思う様にできていない	地域の人達とは、散歩時や地域の祭りなどでふれあい、歌や楽器演奏などのボランティアの人達とも楽しい時間を過ごしている。今年度は感染症対策を講じながら、懇親会の開催や専門学校の実習生受け入れなど、可能な範囲で地域や外部の人との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、懇親会で認知症の人の理解を深めてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では近況や取り組みを報告し、サービスの向上に活かせる様、意見の交換をしている	会議は、包括支援センターや複数の地域代表の出席により、年6回開催している。事業所の取り組みや利用者状況の報告から意見を交換し、運営に生かしている。家族には毎回開催案内と議事録を郵送し、参加要請を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の方と連絡を取り合い、情報交換を行いながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者とは随時連絡を取り合い、介護認定更新や保護費関係で連携し、各種書類の提出や報告等でも事業所の現状を伝えている。集団指導や実地指導等でも運営やサービスの向上に向け、協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催し、議事録で全職員に伝えている。社内・外部研修への参加で都度禁止事項を確認している。ホームの立地上、玄関の施錠は行っているが、希望があれば常に同行している	身体拘束適正化指針を作成し、定期的な委員会や勉強会の開催により、これらに係る内容について全職員で認識を深めている。不適切な言葉等についても日常的に意識啓発を図っている。やむを得ずペット柵等の使用の場合は3原則に則り実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・外部研修への参加で職員が学ぶ機会を持ち、職員や入居者の様子の気付きを報告し合う事で、見過ごされる事が無い様注意を払い、防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば個々の関係者と話し合い、活用できる様に支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定等の際は十分な説明を行い理解・納得を得て行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報誌を発行したり、運営推進会議の案内文を郵送する際に日々の様子を伝えている。都度電話やメールで連絡を取り合い、意見や要望を聞きながら運営を行っている	コロナ禍による家族の心配に配慮し、事業所便りは発行頻度を高め、電話やメールのほか、暮らしの様子を伝えるメモ、写真、本人直筆の手紙などで近況を報せている。家族の要望や意見が出された場合は話し合い、運営やサービスに生かすようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月毎にユニット会議を行い、個々のケアや業務の見直しを行って職員それぞれの意見や提案を聞きながら改善を行っている。必要があれば、職員の意見が代表者まで届くようにしている	会議では活発な意見交換が行われ、ケアや業務体制の改善につなげている。事業所内で対応が難しい案件は法人内会議で協議している。管理者は都度個人面談を行い、法人役職者も頻繁に事業所を訪れ、職員業務を側面からサポートしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況や仕事への取組みの姿勢を把握し、やりがいや向上心を保ちながら仕事ができる様に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や実績・力量を把握し、必要と思われる研修の機会を持ち、学んできた事を共有して日々のケアに活かし、日常の業務の中でも職員を育てる取り組みを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は法人内の各事業所や他事業所との交流を定期的に行って、ネットワーク作りや勉強会、互いの現状や相談事を話し合う事で、サービスの向上への取り組みを行っているが、今年は思う様に行えていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前ケアマネからの情報と照らし合わせながら、本人の不安や要望・困っている事などに耳を傾けて、良好な関係を築くよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っている事や困っている事、要望も聞きながら、サービスの利用開始がスムーズに行える信頼関係を、築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族、前担当者からも情報を収集し、必要な支援を見極めながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし、馴染みの関係を築きながら、共に支え合って生活している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、家族の協力を得ながら、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪や、一緒に外出する為の支援や、入居前からの理容室での散髪等の支援を行っている	現在は人との行き来を自粛しているが、友人の来訪や一緒にの外出、家族と共に自宅帰宅や墓参りなどに出掛ける利用者もいる。また、手紙や年賀状のやり取り、馴染みの理容室や恒例のどんど焼きに行くなど、親しい人との交友や今までの習慣が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して座席の配置を考え、好みや力量に合わせた活動をしながら、お互いが関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて本人・家族の相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動を観察して、個々の思いや暮らし方・意向の把握に努めている。言葉にならない思いも職員間で情報を共有して取り取るよう努力している	言葉での聞き取りやその時々への反応等を捉え、会議や申し送りで職員間で共有している。年に1回センター方式の一部シートを活用してアセスメントを行い、その人らしい在り方についてできるだけ近時情報を蓄積するようにしている。	人生の最終章である終末期の過ごし方について、本人の意向を聞き取り、記録に残すことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族、前担当者から情報を収集し、日々の会話から引き出した情報も共有しながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・温度板等に記録をし、個々の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努め、職員間で共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月毎の会議でケアの見直しを行い、その他都度変化があれば見直しをしている。家族や必要な関係者との話し合いも記録に残し、職員間で共有しながら現状に即した介護計画を作成している	2か月毎に個別の担当職員によるモニタリングとカンファレンスで本人の現状とケアの実践を確認している。本人、家族、医療関係者の意向や助言を踏まえ、定期6か月、または状態の変化に応じ、計画の達成状況と評価を行い、新たな計画を作成している。計画の実践は日々の記録で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を個別に記入して、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた柔軟な対応や支援ができる様日々取り組んでいる。コロナの影響で面会が出来ない期間は、写真と直筆の手紙にて近況をお知らせしていた		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の暮らしの中での地域資源を把握し、地域の方々との触れ合いを通じて、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を希望する方は継続受診ができる様に、家族とも相談しながら支援している。往診以外の受診が必要な時も、家族が対応できない時は支援している	協力医療機関の内科や歯科の訪問診療のほか、専門科や利用者・家族の希望のかかりつけ医の通院は主に職員が対応している。訪問看護センターとの連携や、関係者間で共有できるよう受診記録表を整えるなど、健康状況に即し適切な医療を受けられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員では判断できない事は、職場内の看護師や提携医療機関の看護師に相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は日常の様子、服薬状況等の情報を伝え、安心して治療ができる様に努めている。病院関係者とは、日頃から情報交換や相談をして良好な関係を保つよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にここで生活できる限界を説明し、実際にその時期が近くなった時には、本人・家族と話し合いながら協力機関と方針を決めている	利用契約時に「重度化した場合の対応方針」を基に説明し、同意を得ている。本人、家族と相談しながら、医療機関と密に連携を取り、事業所で対応可能な最善の支援を行っている。利用者の終の棲家としての看取りケアの実践は、今後の取り組みとして考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルの整備、研修への参加で応急手当や初期対応ができる様に努めている。看護師・管理者は24時間対応できる体制にしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、全職員が対応できるように取り組んでいる。地域との協力体制も築いている	年3～4回夜間想定避難訓練を実施し、非常緊急時に迅速に対応できるよう取り組んでいる。火災のほか、地震や水害等防災マニュアルを整備し、防寒等備品は隣接の法人本部で用意している。コロナ禍終息後に消防署や地域の協力を得た訓練の実施を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応の仕方を職員間で話し合い、個々の人格を尊重できるよう対応している	利用者一人ひとりの理解と対応を職員間で共有し、人格の尊重を基本線に苗字や名前にさん付けで呼び掛けている。自尊心やプライバシーを損ねがちな排泄介助等では、十分な配慮を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話等でも、思いや希望を引き出す働きかけをしたり、本人の意思を確認しながら寄り添った支援を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく暮らせる様個々のペースを大切に、希望がある時はできるだけ添える様に努力をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを把握・尊重して、その人らしいおしゃれができるように支援している。化粧品の補充等も支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、バランスのみならず彩りや盛り付けにも気を使っている。もやしのひげ取りやお茶詰め等、一緒にできる作業は行い、毎食一緒に食べている	利用者の希望や栄養バランス、彩りに配慮した手作りの料理で、利用者もできる作業に参加し共に食事をしている。焼肉や居酒屋メニュー、出張寿司などでも食を楽しみ、満足感に込めている。また、自分で食事を摂ることを大切に、刻み食や使い易いスプーン等も工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好み・食べれる量、病気や嚥下の状態等を把握して食べやすい様に提供し、1日を通じて食事・水分量が確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・衛生士と連携しながら、口腔内の衛生を保つように支援している。毎食後個々の状態に応じた口腔ケアを行い、夜間は洗浄剤を使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、様子を観察しながらトイレに誘導する等して、なるべくトイレで排泄できるよう支援している	排泄状況やパターンを把握し、個別に便秘対策等を取り、スムーズに排泄ができるよう支援している。夜間のみおむつ使用の場合もあるが、トイレでの排泄を基本に支援し、状況の変化に即して介助法や衛生用品も変更、工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や飲み物を工夫して運動の働きかけを行い、水分量も確保しながら、医師とも連携して個々に応じた便秘の予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の日程や希望に沿って曜日を調整したり、気の進まない時はずらしたりしながら、納得して気持ちよく入浴できるような支援をしている	デイケア通所や受診日を考慮し、希望を聞いて週2~3回の入浴を支援している。二人介助やシャワー浴も対応し、安全に気持ち良く入浴できるようにしている。拒む場合は無理強いせず毎日声を掛け、本人の気持ちに寄り添うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣やその時々状況に応じて休息を促している。居室内の環境を整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気を理解し、誤薬が起こらないように十分に配慮している。薬の変更時は全職員で情報を共有している。服薬時も個々の能力に応じた支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや嗜好品、生活歴や有する力等を把握して、張り合いや喜びのある生活が送れるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナの影響で外出行事が思う様になってきてはいるが、散髪や買い物、散歩も含め個々の希望に沿って外出できるように支援している。お墓参り等の希望は家族と協力しながら対応している	例年は地域の祭りに出掛けたり、花見や水族館見学など行事的な外出を企画し、デイケアに通所する利用者もいる。コロナ禍では、散歩や買い物、中庭でプランターの花を楽しんだりと外気に触れる機会を心掛け、また、個別や数名での外出支援に取り組み、希望の夕食や定山溪での観劇会などに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望に沿う様にしているが、能力に応じて家族に協力を求めながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、自由に電話をしている方が2名いて、操作を対応する事もある。電話を繋いだり、手紙や年賀状の支援も行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るく清潔を保ち、皆が集まるフロアには植物や熱帯魚、季節の飾りつけや写真・作品等を飾り、新聞や雑誌、絵本等自由に見れるようにしている。トイレには分かりやすい様に目印を付ける等の工夫をしている	窓越しに日差しが差し込む明るい共用空間には、熱帯魚や観葉植物、季節の装飾や利用者で作ったちぎり絵のカレンダーなどを飾ってある。新聞なども目につく所に置き、それぞれの生活習慣の継続や活動意欲の活性化につながる環境を工夫している。食卓席は利用者に応じて配置し、落ち着いて食事が取れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファに自由に座り、1人でも、気の合った同士で会話をしたり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人・家族と相談しながら、馴染みの物や使い慣れた物、家族の写真や趣味の物等を配置して、居心地よく過ごせるような空間になる様工夫している	馴染みの物品の持参を促しており、ダンスや仏壇、家族写真や人形等が持ち込まれている。趣味のパッチワークの作品なども飾りつけ、それぞれの自室として安心できる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや玄関には案内を出し、個々の居室の入口には表札を付け、洗面道具や靴箱等には名前を付ける等して、迷わず安全にできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		